

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



もし、学校が避難所になったら？

～鷹巣南小学校防災キャンプ～

地震を想定した防災キャンプが、7月21日・22日に鷹巣南小学校で行われ、4年生から6年生の児童や教職員、地元住民など約120人が参加しました。この事業は、自分の身を自分で守る大切さを学び、災害時に役立てるため、地域住民とのコミュニケーションを深めることを目的としています。

今回の防災キャンプでは、岩手県大船渡市立末崎小学校の熊谷拓郎校長を講師に迎え『被災地からの報告』と題し、講話を行いました。

講話では、学校が避難所となった時の経験や避難

所での生活で、子どもたちがどのような役割を担ったかなどを語りました。



▲質疑応答では多くの質問が出ました

地域創生へ社会教育からの発信

～平成29年度北地区社会教育関係職員第2回研修会～

平成29年度北地区社会教育関係職員第2回研修会が、8月10日に市民ふれあいプラザで行われ、県内の社会教育関係者など約90人が参加しました。

研修会では、NPO法人まちと学校のみらいの竹原和泉代表理事が講演の中で、地域と学校が情報や課題、地域協働活動でのアクション、小さな成功体験を共有することの大切さなどを話されました。

また、コミュニティスクール推進員の四柳千夏子さん、佐藤昭洋教育長も登壇し、地域ぐるみで子育てを行うにはどうするべきかを話題に対談したほか、

伊勢堂岱縄文館でジュニアボランティアガイドから展示品などの説明を受けました。



▲県教育庁佐藤潔班長の進行による対談の様子

読み聞かせて認知症・介護予防！

～シニアの絵本読み聞かせ講座～

秋田県読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業「シニアの絵本読み聞かせ講座」の講演会・説明会が、7月15日に森吉コミュニティセンターで行われ、約90人が参加しました。

この事業は、高齢者の社会貢献活動・社会参画活動を実施し、協働のまちづくりを推進することなどを目的としています。

この日は、東京都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典先生を講師に迎え「絵本を読んで脳を活性化！読み聞かせによる世代間交流が導く健康長寿」

と題した講演が行われ、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。



▲読み聞かせ活動の効果を学ぶ参加者

高鷹大学学園祭を開催

開申 生涯学習係 ☎62・1130

第21回北秋田市高鷹大学学園祭を次のとおり開催します。

日々のクラブ活動の成果をご覧ください。皆さんのお越しをお待ちしています。(入場無料)

期日 9月11日(月) 11時～
会場 市民ふれあいプラザ

多目的ホール
記念講演(ねんりんピック共催事業)
健康マージャンのプロ雀士によるトーク

ステージ発表
レクダンスクラブ／歌謡クラブ
詩吟クラブ／各クラブ紹介

展示コーナー
習字クラブ／園芸クラブ
写真クラブ／俳句クラブ
ふるさと研究クラブ

※呈茶コーナーもあります。

おやかたDEじよんから

開申 おさるべ元気づくらが長岐賢一

☎090・610118906

日時 10月1日(日) 14時開演

会場 長岐邸(七日市)

出演 梅若流 浅野光子ファミリー
(七日市出身)

※入場無料、雨天決行

伊勢堂岱遺跡ワーキング

開申 文化係 ☎62・6618

伊勢堂岱遺跡ワーキンググループは、世界遺産登録候補の伊勢堂岱遺跡のボランティアガイドを中心とした活動を行っています。

北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡を世界に発信しませんか。

対象 ボランティア活動ができる健康な方

活動内容 ガイドやその支援、遺跡の発信活動(ガイドマニュアルや研修があります)

申込方法 文化係(コムコム)まで直接お越しいただくか、電話にてお申込みください。

子育てサロン「おもちの広場」

開申 生涯学習係 ☎62・1130

木のおもちやなど素敵なおもちや

と一緒に遊みましょう。手作りおもちのコーナーもあります。(入場無料)

日時 9月29日(金) 10時～15時
会場 市民ふれあいプラザ

主催 認定NPO法人
芸術と遊びの創造協会



ふるさとの文化財

20

「縄文時代編」

○壺形土器(二重鳥A遺跡出土)

縄文時代は今から1万5000年前に始まり、2300年前まで約1万年間継続しました。その中で津軽海峡を挟んだ東北北部と北海道南部地域には土器や生活様式に共通した要素が見られ、文化様式を共有していたと考えられます。縄文時代後半の縄文晩期には「亀ヶ岡文化」とも呼ばれる精巧な土器や土偶などの道具を特長とする文化が広がり、その影響は遠く西日本でも確認できます。

今年1月末、沖縄県の北谷町平山原B遺跡でこの亀ヶ岡文化の影響のみられる土器破片が出土したことが報道されました。

その土器には、北海道・東北地方の縄文時代の終り頃に特徴的な「工字文」と呼ばれる文様が付けられていました。工字文は、棒状の道具で線を引き、沈んだ線の部分と浮き彫りになった部分で、漢字の「工」の字を、まるで迷路のように組み合わせた文様です。東北

の土器が運ばれたものか、沖縄を

含む他の地域で作られたものか、詳細は分かっていますが、当時の物の流通や交易の様子の広がり示す貴重な資料です。

このような工字文を持つ土器は北秋田では二重鳥A遺跡でまとも見つかっています。

写真は土器が出土した時の様子です。いずれも高さのない球状の胴部に短い頸が付く壺形土器です。土器の表面の一部を削り取り、浮き彫りの部分と合わせて工字文のやや形が変化した「変形工字文」で飾られています。



これらの土器と一緒に黒曜石も出土していて、周辺地域とのつながりをうかがえます。

縄文時代の終り頃、広く日本列島全域までに及んだ亀ヶ岡文化の圏内にあつて、その一端を担っていた様子を伝える資料です。▽紹介者／北秋田市教育委員会生涯学習課文化係

